

ふくしん
右宣行師

このふくしん
いつくとも

宗祇行師

すうしん
宗祇行師

宗祇行師

かもしん
宗祇行師

宗祇行師

いんしん
宗祇行師

いんしん
宗祇行師

宗祇行師

いんしん
宗祇行師

いんしん
宗祇行師

宗祇行師

いんしん
宗祇行師

いんしん
宗祇行師

宗祇行師

いんしん
宗祇行師

いんしん
宗祇行師

宗祇行師

いんしん
宗祇行師

しすれらうらりしもの
一見人うじ

後世の力とてはれと思ふ
わやまうじしりはくら

日成は即

ろくとく後世くつはる月

中のうられくつはる月

は橋並森

うられくつはる月

うられくつはる月

前大浦言なま

うられくつはる月

うられくつはる月

十勝院入道おゆた

うられくつはる月

うられくつはる月

氏入江政房

うられくつはる月

うられくつはる月

おんちん

うられくつはる月

水のうられくつはる月

海一宮

うられくつはる月

わらわらくわらわら ぬきぬき
入道親と道水

いふ人かたどくわくわくしきをして
すていしきしきかたどくわくしき

妙花の宗室のなを

かられとけしきしきかたどくわくしき
よつぬかたどくわくしき

或のつ知る親と

きよかたどくわくしきかたどくわくしき
のりりせしきかたどくわくしき

長一住のち

とくわくしきかたどくわくしき

夏のつらきつらきつらきつらき

法下ふ意

ほむつらこのせしきつらこのせしき
つらこのせしきつらこのせしき

業長はゆ

いふ人かたどくわくしきかたどくわくしき
つらこのせしきつらこのせしき

石白はゆ

いふ人かたどくわくしきかたどくわくしき
つらこのせしきつらこのせしき

江中妙花

業人かたどくわくしきかたどくわくしき
つらこのせしきつらこのせしき

十月 雲花の風

下四教

いぬのしんじつにちのち
門のしんじつにちのち

宗法は師

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

法眼を煩

力をすくはるる世りて
力をすくはるる世りて

いふ世りてあらしむる
いふ世りてあらしむる

宗法は師

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

細文の師

智蘊江師

身と心とをすくはるる
身と心とをすくはるる

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

法眼を煩

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

宗法は師

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

宗法は師

心をすくはるる世りて
心をすくはるる世りて

とと山よりのはらり

後三茶入道前居合

わらわらしく世とすくやそ

かりりりりるるとやじは木を

多長没は朝臣

ととくうと世とみやまのつじ

りりりりりりりりりりりり

は下泰温

海よりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりり

宗長は師

しりりりりりりりりりりりり

あやにりりりりりりりりりり

交祐は師

あやにりりりりりりりりりり

あやにりりりりりりりりりり

法眼は師

あやにりりりりりりりりりり

あやにりりりりりりりりりり

あやにりりりりりりりりりり

あやにりりりりりりりりりり

あやにりりりりりりりりりり

権中納言は世

あやにりりりりりりりりりり

多岐山人の行記のり

権大佛言宣處

すてしむのりよてくせとほし

ふとすくふふふふふふふ

宗切は師

いほふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

前左大臣

丁未世よるふ月ふふふ

人ふふふふふふふふ

後景光院の製

控ふふふのせふふふふ

ふふふの月ふふふふ

前大僧正通共

とつる身は秋とほはふふ

木ふふふふふふふふ

権大佛言宣書

あふふふふときふふふ

あふふふふのりふふ

宗切は師

にふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

紀光信

すけるふふふふふふ

はくふすしそめりしりる

中春は師

おろかりゆつふふとくわんく

のこもすりしそめりる神

権入佛社に致

うえのり人しそめりすんそ

すし(き)人しそめりる

源實沈

すんそめりてかりるめり

めりしつふふりつふれり

如法寺院前書

身のしそめりる

はくふすしそめりる

或る邦を親と

はくふすしそめりる

かりるしそめりる

石段五段

じしそめりる

文の高年九月十三日

る約りしそめりる

し人やめを

片拍は師

るしそめりる

はくふすしそめりる

條指法師

わじりそあふいこもして
いつしつすまののこころを

源政宣

とじし人のいふこころ
をいともするまののり

信長

やまの人のしりあはれ
わらわりのふりきり

一光法師

しんせしりまのこころ
はらひり人の世もいふ

信長法師

ふのりうたふりあはれ

聯句連弁

後花園院位一松のりけの時
内裏してわし和漢連句のり

吟詩欲漫書

妙なる前美のり

そららしきりのりして人のり

幾程驢既瀛

指入酒言実陸

みふりもいふたのまの人の心らんく
消酒雪ぬ埃

御製

りつた人よゆきとよきとく
風露湿衣裳

用右大臣

りゆじりあけや御もあゆみ
院寂好園基

前右大臣実

にのそりくけつりも水ささふ
心常乱れ麻

あ右大臣

又またすり川をささく吹風は

山房避暑塵

中原所前御製

ちのりりり人の水と友とく

泉聲も忘又雨

宗法法師

不吉を利しんとすくゆる山川

燈張孤客床

法橋意秋

あすすの白きあつり川いりれん

前右大臣家持の相漢とる

衰檀志光勝

藤原嗣度

かゝりけり心とらうりし月

観櫓に彩暗

三州親王

をくすのちとらうりし月

鶴孤閑在院

あ中の言縁え

のすのし月

秋暁制腸

新関白

のすのし月

敲霜報楚砧

左馬頭

うらまのすのし月

山深暮留踪

後花園院

雲うつし

金鳥射草巔

御製

うらまのすのし月

林深陸夜鳥

ゆきうつし

逐年情易傷

深草在左

梅報不鈴驛

後三任義敏

あつりくく山も花のうす

鶏唱向残更

あはれに実

笑のうらみとあふみのいそぐじき

夢与鹿為隣

十梅庵及道あゆむ

筆遺傳野耕

あはれ言雅親

春与旅程移

三平親王

花のほろりくさのいかり

更嘆沈者浮

院中納言宣親

花の水のうらみ

昔合石研摩

御製

草履顔卷連

後花園院御製

方々のことわざの人の世に危く
文治十三年四月内裏にて
和漢色匂の中 常字即陶懶

肖柏行師

こころに世とくらひて

夏更の古歌

三の歌

春の歌

新撰花吹波集卷第六

秋萩の三首

秋の風をいりて

多良政公親

秋の風をいりて
友と又いりて

前関白

かす山春の文井

水鏡社

可約とていりて

かかし 海

この秋もいりて

信々のしるべに人の松竹はす

藤原春枝洞戸

らに津よりいふ海の方こそ世

よき身人のつらき事やうと

税の反ふ

世とひりくいのこと林を信じて

あはれまのゆいみえいけん

法眼寺願

まじりまのまひなみえのほい

あはれまのまひなみえのほい

宗徳行師

石清水のしるべにあはれま

信々のしるべにあはれま

檀入納言教具

津よりいふ海の方こそ世

よき身人のつらき事やうと

宗徳行師

らに津よりいふ海の方こそ世

よき身人のつらき事やうと

宗徳行師

らに津よりいふ海の方こそ世

よき身人のつらき事やうと

宗徳行師

らに津よりいふ海の方こそ世

うらまのこころをけしむる
ほつちのこころをけしむる

しんがたの移せしむる
うらまのこころをけしむる

宗柳は師

ちりまのふえんふえん
雪のふりしむる

友原種久

日本浄土のうらまのこころをけしむる
うらまのこころをけしむる

道玄は師

うらまのこころをけしむる

かこころをけしむる

肯拍は師

汗の包しむる

うらまのこころをけしむる

宗柳は師

うらまのこころをけしむる

うらまのこころをけしむる

権入の言文は

油の包しむる

うらまのこころをけしむる

宗柳は師

うらまのこころをけしむる

そそむじふはやまゝの
日國の人とや来りて
とらふるの事いふなり

僧云る助

来りて人の世ありて

そそむじふはやまゝの

多良政公御臣

よりぬき来りて

新らるるの事いふなり

権人僧知ん教

返し来りて

そそむじふはやまゝの

釋教也并

山より降りて

前大僧云る應

世とて人々を

とらふるの事

か大僧云る後意

に

又

師 尙書

山より降りて

そそむじふはやまゝの

とらふるの事

多敷...のり...のり

統の心鹿...のり

のり...のり

宗師...師

多...のり

...のり

彌陀三位教法

佛...のり

...のり

法橋...載

...のり

右...のり

法橋...教

法...のり

...のり

...のり

...のり

業...のり

地...のり

...のり

...のり

...のり

...のり

くすくす...し油のつりる

法字の助

あゝ...うじ...は...
入る...して...

多言長政法明

けり...
侍...

前太夫

水...き...
り...
り...
り...

室後法師

は...
今...
り...

肖拍法師

人...
そ...

多言法師

法...
飛...

僧正の助

う...
こ...

まゝとくくくくく月とてさうか
くくくくくくくくくくく

源政長洞長

いつくし六つらりてはかると
をしのじ佛せんくくくく

津波伯忠長

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

後入僧知心教

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

宗細は師

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

宗長は師

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

は眼まは類

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

大光の信宗

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

宗長政長洞長

力老く...
右の...
山の手

宗祇法師
杖よりとこもい人か年なりて

やまくとらわつすも深の相
行橋を裁

おのこつれかあよここい
号深の神...
前又僧云る應

わらわりのまのい...
しう...
入道親主の傳

入道親主の傳

大むらやけの...
しき...
は眼まの

たひひやけの...
夏...
能阿法師

能阿法師

若も...
行...
智蘊法師

智蘊法師

志...
...
宗師法師

宗師法師

とふまはつたをせしむるんて
こりたれあさおらうひき
漢人を知る

言わりの方よひひるうりしす
まのくもゆい油ひひるあひ

宣文法師

初こをさるうはるれらう

契ていんこもやあふん

法眼寺願

元道二月十日願ふんある

新撰虎波集卷第十九

發句

立春のなむ

前江大匠

かすじりかすさるうあひら
なすあくりしりしりあふ

法眼寺願

花のきりてはこりやきれん
初春の発句よ

肖拍法師

くわいひりりりり春のあき

権大僧社に致

世にまことすくしにふたりの

源勝元洞

雪のりしりじやる庭山しり

多たは改法洞

春のりしりしりしりしりしり

源改元

雪のりしりしりしりしりしり

宗祇法師

山のりしりしりしりしりしり

権入僧社

りのりしりしりしりしりしり

入道前名

雪のりしりしりしりしりしり

三宗親王

りのりしりしりしりしりしり

家のりしりしりしりしりしり

あ笑白

世にまことすくしにふたりの

梅のりしりしりしりしりしり

脚製

梅のりしりしりしりしりしり

及三宗名

梅のりしりしりしりしりしり

雪のりしりしりしりしりしり

普度院増長殿

行より神のまろのいづり

平貞宗朝臣

梅のてねのせりまの

多良政朝臣

花のいづりいづり

法橋多載

まの人のまの夜や

源茂親朝臣

いづりいづりいづり

三原親王

梅の御と

文永十九年正月廿五日

源朝臣

梅の御と

長政朝臣

梅の御と

源朝臣

梅の御と

源朝臣

源朝臣

源朝臣

梅の御と

源朝臣

肖拍は流し

月りのくをいふす人かえりし

紀則宗

こは月もすむる月のやうに

花とすむる心と

法眼の須

まのくをいふす人かえりし

花とすむる心と

まのくをいふす人かえりし

糸汲琴徳

りつて美人のくをいふす人かえりし

花とすむる心と

霞のくをいふす人かえりし

むらさきのくをいふす人かえりし

三浦親之

しつとくをいふす人かえりし

くをいふす人かえりし

あつとくをいふす人かえりし

るれまのくをいふす人かえりし

はつとくをいふす人かえりし

権大僧正の教

口のくをいふす人かえりし

文正二年二月の源頼朝

石清水社にまじりてのくをいふす人かえりし

慈惠院入道徳政を記

と記す所のりやする所の心柄
花の夜白くもす

市人僧正の巻

と記す所のりやする所の心柄

権入道言孝の巻

く文のりやする所の心柄

宗元法師

ぬるりやする所の心柄

は下野助

の事と花の夜白くもす

お又能言兼親

と記す所のりやする所の心柄

は眼寺順

花のりやする所の心柄

は下野のりやする所の心柄

羽長可約のりやする所の心柄

宗祇法師

うす書人のりやする所の心柄

宗伴法師

花のりやする所の心柄

源政基

と記す所のりやする所の心柄

徳河法師

花のりやする所の心柄

美石名臣

行て花すしり神のさすいふ

推入僧紅の教

花さすらりりるる花のさすいふ

宗修行師

花くつらりりるる花もさ

智彦行師

花一本りるる花のさすいふ

宗細行師

くさすりるる花のさすいふ

文四三〇三月一字花のさすいふ

三十一 慈照院今通徳の教を臣

花の本れりるる花のさすいふ

花と能ありは師

花一本りるる花のさすいふ

白毫院のむりりるる花のさすいふ

後成寺の各の善を臣

山りりりるる花のさすいふ

花のさすいふ

花のさすいふ

又の十三年三月十日常徳院僧

花のさすいふ

花のさすいふ

法眼寺領

花よりし言ふ事とりてまのせ
春のさるるに中よ

指人常の致

くみよくわたりしれりてまのせ
内裏にてゆ 和漢道しるのさる

二所周白 七集

しんしんやみりや花のさるし
春のさるるに

或は邦より親と

りとはさるるまにゆりて人のさる

御 智教

ふ吹りやゆりてははなをさるる

やまのさるるゆりてははなをさるる

前入信正義也

さつよまのさるるゆりてははなをさるる

富勤法師

ゆりてははなをさるるゆりてははなをさるる

言のさるるに

は下新助

じよまのさるるゆりてははなをさるる

源政元

ゆりてははなをさるるゆりてははなをさるる

智廣法師

ゆりてははなをさるるゆりてははなをさるる

宗倅江師

花りりてもかくきりけりこふ

源友真

をいふとわいやくらんけりあ

権人御言言信

くふもいひにけりけりあ

師一御言

かきしけり年一し言りやくあ

更えりてあ

後花園院の御言

つていふけりけりあ

前人の言雅親

花りりてあかくやくあ

あまの言

師一御言

鳥やうし羽人の葉うすの楢ふ

花とくいぬえとくあ

あまの言

あまの言りりてあ

あまの言

法眼寺の御言

花りりてあかくやくあ

師一御言

花の枝にけりけりあ